



倉本 聡さん



サポーターインタビュー
基金を支える方々

Heart & Heart
Sou Kuramoto

富良野自然塾 東京校

富良野自然塾のコンセプトそのままに、以下の4つのプログラムが用意されており、インストラクターのガイドの下、120分で全プログラムを体験することができます。



① 緑の教室

人間を含む動物は、酸素と水、なしでは生きられません。その2つを提供してくれるのが木の葉。自然塾では、葉っぱの話をきっかけに、地球と自然の尊さをあらためて考えます。



クスノキの前に「この木に葉っぱは何枚ありますか?」と質問するインストラクター

② 裸足の道

現在、われわれはほとんどの情報を、視覚から得ています。このプログラムでは、目隠しをした上で裸足になって芝生や砂利、丸太、落ち葉、土などの地面を歩くことで、視角以外の四感から自然を感じ取ります。

③ 1mの地球

地球の構造や海、陸地のこと、中でも著しいスピードで消滅しつつある熱帯林の現状などを、直径1mに縮小した石の地球を使い学びます。



直径1mの地球。30m離れたところに直径36cmの月がある

④ 46億年地球の道

46億年の地球の歴史を4600mの距離に置き換えた道を歩きます。過去に起こった地球高温暖化や全球凍結、生物の誕生と進化、石炭や石油の蓄積などを見つめつつ、あまりにも短い人類の歴史とそこでわれわれが果たしたことを探ります。



46億年・地球の道の入口



道の途中にある恐竜の足跡

人間は本当に不思議なことをなしている。 智恵をしばって自然をこわしている。

※倉本聡作「マロース」に登場する、人間に愛妻を殺された羽の老いた白鳥のセリフより

心に落ちる プログラムを開発

「昨日、東京校で環境教育プログラムを体験しましたが、非常に分かりやすかったですね。」

倉本 口で説明して分かるのなら体験する必要はないので、体験しないと分からない、体験すれば心に落ちるプログラムとはどういうものか、相当考えました。「口に環境と言っても、ゴミやCO2、温暖化と、いろんな問題があるでしょ。そういった環境を包括的に捉えるには、どのような視点からアプローチすればいいのか。そこからスタートし、2年の準備期間でノート5〜6冊になりましたが、結局、地球・太陽・水・空気という根本的なところから始め、だんだん論理的に組み立てていき、最後に具体的に見せるために

置から恐竜の大きさを思い描けるでしょう。想像力を刺激するのも自然塾の課題だと思ってるんですよ。

「1mの地球」では、地球と月との距離感が実感できました。

倉本 学校の先生が教えると、地球の直径が何キロで、月までの距離が何キロと、数字で終わってしまう。昨日の講演会でも話しましたが、石油の残量(確認埋蔵量)は1兆2000億バレル。この数字を「存じ」の方も多いでしょう。でも、それが富士山1個の7分の1と言われたら、愕然とする。ボクも最初はウンだろうと思いましたが、これをNHKのテレビ番組で話すにあたり、間違えてはいけないとNHKにも計算し直してもらいましたが、何度やっても同じ。びっくりするでしょ、これが実感ということなんです。

科学オンチだったから できたこと

「シナリオや演劇というペースがあったから、こういつた見せ方ができたのでしょうか?」

倉本 そう、シナリオや演劇の場合、やはりストーリーから説き起こすんですよね。その流れの中でお客をどのタイミングで、どう引き付けるか。演劇

には「つかみ」という言葉があります。プログラムでもこの「つかみ」には工夫を凝らしました。それと、もともとボクたちは科学オンチで、どちらかと言えば体育会系、体を動かす方が得意です。最初、スタッフが「これは何ですか?」と尋ねるから、「誰に向かって聞いているんだ! オレに聞いたら分かるわけないだろう」という会話でスタートしたくらいですから(笑)。分からないことをまず自分たちが理解する。それを踏まえ、他の人にも理解してもらえよう伝え方を工夫する。本で知るのではなく、第1次情報、つまり自ら感じることを大事にしています。

「暗くなったら寝る」が人間本来の生活。つまり自ら感じることを大事にしています。

倉本 そうですね。だからこそ、あの作品は3日後に見直されたのだと思います。

「暗くなったら寝る」 が人間本来の生活

「富良野自然塾はプリンスホテルのゴルフ場を森に返すという目的でスタートしていますが、この考え方は先生の作品中にしばしば見受けられます。文明批判と言いますか?」

倉本 そういう意味では、ボクの座標軸はまったく変わっていませんね。テレビドラマ「北の国から」は、フジテレビが「小さな家族の大きな愛の物語」というキャッチフレーズを付けて

「北の国から」で言いたかったことは、そこにあること?」

倉本 思いを同じにする方がいれば、ですね。来年は岡山で開校を予定していますが、基本的な思想はきちんと伝えたいので、インストラクターは富良野で養成します。女優の竹下景子さんやサッカーの岡田武史監督もインストラクターになってくださいました。まだまだ足りない。ボクは、時間に余裕のあるシルバード世代の方々にこそインストラクターになってほしいと思います。

「これからは富良野自然塾の分校を増やしていこうと、お考えですか?」

倉本 そうですね。だからこそ、あの作品は3日後に見直されたのだと思います。



倉本聡(くらもと・そう)
1935年東京都生まれ。脚本家。ニッポン放送を経て77年に北海道富良野市に移住。84年から役者やシナリオライターを養成する「富良野塾」を主宰(現・富良野GROUP)。代表作に『前略おふくろ様』『北の国から』『昨日、悲別で』『駅STATION』『風のガーデン』など多数。2006年より「NPO法人C・C・C富良野自然塾」も主宰し、環境教育に尽力。

いと思ってるんですよ、本当に。今日は、貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

※プログラムの説明は同校パンフレットより引用編集
● 国営昭和記念公園
【住所】東京都立川市緑町3-17-3
【交通】JR中央線立川駅より徒歩10分